

岩手町子抱・四日市地域アカマツ 樹種転換のための森林整備協定



紫波町の松くい虫被害地



県北部の「南部アカマツ」
資源を保全



民国連携協定による防除帯
(アカマツ空白地帯)として
多様な森林を整備

松くい虫被害対策として未被
害アカマツ林の樹種転換



岩手町御堂松植物群落保護林

林野庁 東北森林管理局 盛岡森林管理署

○岩手町子抱・四日市地域森林整備協定(全体構想)

民国連携した森林整備協定の目的

松くい虫被害森林の拡大防止に向け、アカマツ空白地帯による防除帯森林を造成し、松くい虫の北上および拡大を防止する。また、防除帯の造成にはベルト状のまとまったエリアが必要であることから、民・国連携した森林整備による取り組みを図る必要性がある。

樹種転換による森林整備の方法

樹種転換を図る森林の更新方法は、コナラ・クリ等の郷土樹種の萌芽更新と、地利・地位の高い林分や、下層植生に笹等が繁茂し萌芽更新がむずかしい林分でのカラマツの新植を行うなど、広葉樹と針葉樹がモザイク的に配置された多様な森林の整備を図る。

樹種転換による森林整備の効果

防除帯としての機能発揮。

大量のアカマツ材の供給と、需要の高いシイタケ原木、広葉樹チップ材の供給。

萌芽更新、一貫作業、低コスト林業の検討や技術開発。

カラマツ林、広葉樹林のモザイク的配置による多様な森林に誘導。

林業事業体への継続的な雇用の創出と林業の成長産業化。

【産・学・官の連携で事業効果の拡大】

森を守り・森を育み・森を利用する林業サイクルで森林再生